

第376号 (令和元年10月14日(月)発行)

発行所

京都女子大学 宗教部

京都市東山区今熊野北日吉町35

電話 075 (531) 7074

華利陀芬



発達教育学部准教授 黒田 義道

「空気」を読むな、「和」を乱せ！ —社会をつくる、ひとりに。

【憲法十七条】

六、七世紀に活躍した人物に、聖徳太子（厩戸王）がいます。その生涯は伝説に彩られています。法隆寺や四天王寺の建立、遣隋使の派遣、冠位十二階の制定など、数多くの業績が語り継がれています。そうした中でも、特に大切なことは、日本への仏教の伝来・定着に大きな功績があったと広く受け止められてきたことです。

この「憲法」は、現代の「日本国憲法」の「憲法」とは異なって、役人の道徳的規範を示したものとされます。性格は現代の憲法とは全く別物といえますが、一般民衆に向けた内容ではなく、権力を持つ者に向けた内容である点は現代の憲法と同じであるのかもしれない。

「憲法十七条」には、仏教をはじめとする当時のグローバル・スタンダードが色濃く反映しています。たとえば第二条には「篤く三宝を敬ふ。三宝は仏・法・僧なり。……それ三宝に帰らたてまつらずは、なにをもつてか枉れるを直さん」とあります。月例礼拝で、

己を見出すのです。そこに「和」を尊重する見方が生まれます。現に仏教徒の現実生活の中で「和」は大切にされてきました。たとえば釈尊は、異なる宗教に対して常に寛容の態度で臨んでいます。他者に和顔愛語（なごやかな表情、やさしい言葉）の態度で臨むことも奨められます。

京都女子大学の建学の精神は、親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えです。親鸞聖人は聖徳太子を篤く敬われました。親鸞聖人は太子を「和国の教主（日本の釈尊）」と讃えています。

「憲法十七条」第一条には有名な「和らかなるをもつて貴しとなす……」があります。直接の典拠は儒教の聖典にありますが、これも仏教と結びつけて語られます。「憲法十七条」そのものに、

「和」を重んじるとされることには、根拠があるのです。仏教が「和」を重んじたことには、直接の目的とした教えではありません。こうした事柄は、言わば処世術に過ぎません。

「和」とは？
「憲法十七条」で「和」の具体的な内容を見ると、議論をすることの大切さが述べられています。第一条を意味しましょう。「人が集まればグループができるし、専門家よりも素人が多い。上司と部下、親と子のような地位や世代の違いもあれば、地域事情の違いもある。けれども異なる立場に寛

他人の過失を探し求め、つねに怒りたげる人は、煩惱の汚れが増大する。かれは煩惱の汚れの消滅から遠く隔っている。
〔ダンマパダ〕二五三

聖徳太子三十三歳の四月（旧暦四月は夏です）、はじめて憲法をつくり、十七箇条を自ら書いて天皇に奉られた、その内容です。いわゆる「憲法十七条」の制作を讃えています。

また、第十条に怒りの心をいまして「われかならず聖なるにあらず、かれかならず愚かなるにあらず」ともにこれ凡夫

「和」を重んじるとされることには、根拠があるのです。仏教が「和」を重んじたことには、直接の目的とした教えではありません。こうした事柄は、言わば処世術に過ぎません。

「和」とは？
「憲法十七条」で「和」の具体的な内容を見ると、議論をすることの大切さが述べられています。第一条を意味しましょう。「人が集まればグループができるし、専門家よりも素人が多い。上司と部下、親と子のような地位や世代の違いもあれば、地域事情の違いもある。けれども異なる立場に寛

令和元年11・12月 月例礼拝日程表

11 月				
日	曜日	講時	対象学生	担当
6	水	1	養音1	森田
		2	福祉3	黒田
7	木	1	現社3C・3D	森田・普賢
		4	現社3A・3B	赤井・藤井
11	月	1	現社1A・1B	中西・野村
		2	史学1A・1B	野村・上野
		3	国文1A・1B	普賢・黒田
		4	児童1	黒田
12	火	4	英文3A・3B	黒田・清基
13	水	1	法学1A・1B	藤井・秋本
		3	国文3A・3B	森田・普賢
		1	食物1A・1B	塚本・井上
15	金	2	教育1	三浦
		3	児童3	秋本
19	火	1	心理1	森田
22	金	1	英文1A・1B	秋本・三浦
		2	心音3	塚本
		4	現社1C・1D	那須・安田
25	月	1	造形1A・1B	井上・上野
		2	食物3	普賢
		4	史学3A・3B	竹本・那須
26	火	1	教育3	西
		3	造形3	森田
27	水	1	法学3	清基

◇ビデオ月間

12 月				
日	曜日	講時	対象学生	担当
2	月	1	現社1A・1B	中西・野村
		3	国文1A・1B	普賢・黒田
3	火	1	心理1	森田
		4	英文3A・3B	黒田・清基
4	水	1	養音1	森田
		1	食物1A・1B	塚本・井上
6	金	2	教育1	三浦
		3	児童3	秋本
9	月	2	史学1A・1B	野村・上野
		4	児童1	黒田
10	火	1	教育3	西
		3	造形3	森田
11	水	1	法学1A・1B	藤井・秋本
		2	福祉3	黒田
16	月	1	造形1A・1B	井上・上野
		2	食物3	普賢
18	水	4	史学3A・3B	竹本・那須
		1	法学3	清基
19	木	3	国文3A・3B	森田・普賢
		1	現社3C・3D	森田・普賢
		4	現社3A・3B	赤井・藤井
20	金	1	英文1A・1B	秋本・三浦
		2	心音3	塚本
		4	現社1C・1D	那須・安田

容な心を持ち、自分の都合に縛られた頑なな心を離れて互いに話し合うことができたなら、現実・理論ともに筋道が通っていきるのである。

努力が必要で素人は「わかりません」と言っ てよいのです。地位や世代的違いを乗り越え、その立場の違いを理解し合えるよう、お互いに話し、聞く努力が必要です。

「和」の理解が、ぜひ必要です。何が求められるべき「和」か考えてみませんか。「一人の幸せを、社会の幸せに繋げていく。」(京女ミッション)ら

「和」の理解が、ぜひ必要です。何が求められるべき「和」か考えてみませんか。「一人の幸せを、社会の幸せに繋げていく。」(京女ミッション)ら

世界中で肥満者が増え続けています。1980〜2015年に195の国と地域を対象として行われた疫学研究において、世界人口のおよそ3分の1に相当する22億人の成人と小児で肥満や過体重に関連する健康上の障害が起るおそれがあり、死亡率も高まっていることが報告されています。

日本人の肥満をBMIが25以上としています。平成28年度国民健康栄養調査による20歳以上の肥満者の割合は男性31.3%、女性20.6%と特に男性において肥満の増加は顕著な傾向にあります。

子どもの肥満も増加しています。40年前と比べる約2倍に急増し、子どもが減少から増加に

乳栄養でないこと④離乳食の早期導入⑤果汁(果糖)や菓子の過剰摂取⑥睡眠時間が短い、身体活動性の低下など、遺伝的要因あるいは環境因子が挙げられます。

子どもたちととも

⑤ 幼児期からの肥満予防

子どもの肥満は大きな社会問題となっています。子どもの肥満が進行すると成人の場合と同様に糖尿病、脂質異常症や高血圧を合併しやすくなります。

転ずる現象はadiposity reboundと呼ばれる、早期に出現するほど、思春期の危険率が高まることや生活習慣病リスクとの関連が指摘されています。

adiposity reboundを早める要因としては、①両親の肥満②低体重あるいは高体重での出生③母

前号新聞「芬陀利華」に太田貞司先生が、「芬陀利華」という言葉を使用した。『男性介護者の集まる場、話せる場』に尽力されてきた荒川不二夫さんを中心とする方々を「芬陀利華」と讃えていた。もともと「芬陀利華」という言葉は、法然聖人が選定された浄土三部経のひとつである『観無量寿経』に出てくる言葉である。「芬陀利華」とは、インドの古い言葉であるサンسكريット語の「プンダリーカ」の音写で、「白蓮の華」という意味である。「白蓮の華」は蓮の華の中で最も高貴なものとして知られている。親鸞聖人は阿弥陀仏の教えを信じ念仏する者を「芬陀利華」と讃えている。

(普)



「粒ぞろい」ということ、 または「近代化」について

家政学部教授 斎藤 英俊

「昭和の大修理」と称された桂離宮御殿群の修理工事は、1976年から6年間に亘って行われた。私はこのとき文化庁から宮内庁に派遣され、工事を担当した。その時の経験から話を始めよう。

これに対して、土佐石灰の壁は暖色系の白で、クラックは全く現れなかった。この相違の原因を調べた結果、粒度分布の相違であると判断された。JIS規格の消石灰の粒度分布は、粒径が小さく、分布曲線が細く尖っている、即ち、粒が揃っていることが知られた。一方の土佐石灰の分布曲線は広いならぬ曲線となっていた。即ち、大小様々な粒の集合であった。

御殿群の外壁は、漆喰仕上げの土壁である。その仕上げに使われる漆喰の材料は、伝統的な製法で作られた消石灰が使用されてきたので、この工事も高知県で生産される「土佐石灰」を使用することとした。壁工事に使用する前に、一般に流通しているJIS規格の消石灰と土佐石灰で試作壁を制作して仕上げの色味や表面の状態を比較した。その結果、JIS規格の消石灰の壁は、やや寒色系の白で、微細なクラックが一面に認められ

は、地震時に地表面に砂が水と共に吹き出てくる現象であり、その上に建っていた建物は傾いたり転倒したりする被害を受けると、液状化現象が起きるかは複雑なメカニズムによるが、そのなかでも砂の粒度が揃っている場合に発生しやすいことが知られている。JIS規格の消石灰と伝統的な製法で作られた土佐石灰の話は、工業製品と手作り品との関係に置き換えることができる。近代の工業生産の重要な課題の1つは、均質な製品をいかに大量に生産するかであった。同じ会社の同じ製品の中に色や形、味が少しでも異なるものがあれば不良品として排除される。

自然の木材を使用した家具の場合、無垢材を使用すれば年輪や色はそれぞれ異なる。しかし、近代社会ではそれは嫌われ、評価が低いものとなった。例えば六脚揃いの椅子があれば、その六脚の椅子の木部はほぼ同じ色合いで、木目もほぼ同じものが求められた。その要求に応えるために突き板の技術が開発された。突き板は、木材を0.2〜0.6ミリメートルに薄くスライスして、集成材や合板の表面に合材樹脂などで貼り付けたものである。したがって、木目の綺麗な無節の良材から10〜20枚のほぼ同じ木目・色合いの薄いシートをとることができた。突き板は、無垢材に比べて価格を安く抑え、集成材や合板を使用することにより収縮や変形を押さえることができる。しかし、それ以上に重要なのは同じ色と木目の製品を揃えることなのである。

この詩節を読んで、なぜか「炎上」という現象を思い起こした。「炎上」とは、ある人の行いや発言に対して、主にインターネット上で多数の人の批判や非難が殺到する状況です。政治家、芸能人など有名人名人から一般人に至るまで、様々な人たちが、日々「炎上」の対象となっています。

「炎上」の対象となつては、まさに「怒り」に燃えた人々が次々と標的を変えて、非難の対象となった人の人格、人間性までも焼き尽くしていく、そんな事象であると言えるかもしれません。もちろん、そうした「怒り」のなかには正当なものもあるでしょう。しかし「暴力」が、しばしば自分の正しさを信じて疑わない人々によって引き起こされるといふことを忘れてはなりません。

後、ついにホテルでもフォオガーを提供するようになった。おそらく多くの外国人客が私と同じ要求をしたからだと思われる。当時のインドネシアやベトナムでは、工業製品こそ品質の良い高級品であり、手作りの品は粗末なものとの考えがあったのである。私たちがこのことを笑うことができない。日本でも近代化の過程で、工業製品こそが品質が高く、優れていると信じてきた時代があるのだから。

最後に、もう一度、「粒ぞろい」の話に戻ろう。「粒ぞろい」は、優れていることの意味に用いられている。しかし、「粒ぞろい」が必ずしも優れた状態であるとは限らないことは、先の話からも判るであろう。純粋・均質な物質の中に異質なものが混入することで、革新的な性能を発揮することもあることは、エサキダイオードのトンネル効果など、多くの化学的現象でも知られている。

私が京都女子大学で教え始めて10年目に入った。京女生は大人しく、似通った性格の学生が多いと感じているが、近年、その傾向がますます強くなつていくように思われる。異質な学生を排除せず、むしろ積極的に迎え入れて、粒ぞろいの学生集団にしない方が求められているのではないだろうか。

だが、実は、釈尊が悟りを開いて「ブツダ」(目覚めた人)となった後、自ら懇願して釈尊の弟子となつたと言われています。そして、これが仏教史上、最初の尼さんの誕生だったので。ちなみにヤショウダラーも後に尼さんになりました。

さて、以上は二千五百年前のインドの話です。では、そこから時間空間も遙か遠く隔たった現在の日本の尼さんってどんな人たちなんだろうかと、今回ご紹介するのは、そんな尼さん自身が現代日本の尼さん事情について、とてもぎつぐつばらんと語った面白い書物です。著者の勝本さんは、あながきに次のように記述しています。「後になって冷静に考えてみると、私は尼さんギライなのである。自分のことを尼さんと思つてなくて、近頃は「尼さんのコスプレをしている」と言っている。私もイラストレーターだった勝本さんは、30代で仏跡巡拝の旅に出た。そのうち、叡山学院や佛教大学、京都大学などで仏教学を学び、かたわら天台宗の青蓮院門跡で得度した異色の経歴の持ち主。他では聞けない「異端の尼さん」のお話ぜひ、本書を手にとってみて下さい。

揃えることなのである。ある会社のトマトケチャップは、どこで買っても何年も前と変わらない同じ味がする。しかし、トマト1つ1つの味は違うはずなのに、いつでもどこでも同じ味がするのはおかしくないのか？

自然素材を原料としている限り、同じ味を維持するには膨大なエネルギーが費やされ、どこかで無理が生じていないか？

インドネシアに行ったときの経験である。洒落た喫茶店で、インドネシアの美味しいコーヒーを期待して注文した。しかし、期待していた味と違っていたので驚いた。

メニューを見ると、インドネシアン・コーヒーとは別にネスカフェとあるではないか！ しかも、ネスカフェのほうが高い！

ベトナムでも同じような経験をした。私がベトナムを初めて訪問したのは1991年のことだ。まだ開放政策の途上にあつた。外国人向けの立派なホテルなのに、朝食は毎日、インスタントラーメンである。あるときホテルのボーイに、あれが食べたいと路上で売っているフォオガーを指して要求したところ、我々のホテルではフォオガーのようなものは提供していない、と誇らしげに話した。フォオガーは当時一杯50円程度だったと記憶している。ベトナムを訪問する度にそのようなりとりが続いた

最後に、もう一度、「粒ぞろい」の話に戻ろう。「粒ぞろい」は、優れていることの意味に用いられている。しかし、「粒ぞろい」が必ずしも優れた状態であるとは限らないことは、先の話からも判るであろう。純粋・均質な物質の中に異質なものが混入することで、革新的な性能を発揮することもあることは、エサキダイオードのトンネル効果など、多くの化学的現象でも知られている。

私が京都女子大学で教え始めて10年目に入った。京女生は大人しく、似通った性格の学生が多いと感じているが、近年、その傾向がますます強くなつていくように思われる。異質な学生を排除せず、むしろ積極的に迎え入れて、粒ぞろいの学生集団にしない方が求められているのではないだろうか。

だが、実は、釈尊が悟りを開いて「ブツダ」(目覚めた人)となった後、自ら懇願して釈尊の弟子となつたと言われています。そして、これが仏教史上、最初の尼さんの誕生だったので。ちなみにヤショウダラーも後に尼さんになりました。

さて、以上は二千五百年前のインドの話です。では、そこから時間空間も遙か遠く隔たった現在の日本の尼さんってどんな人たちなんだろうかと、今回ご紹介するのは、そんな尼さん自身が現代日本の尼さん事情について、とてもぎつぐつばらんと語った面白い書物です。著者の勝本さんは、あながきに次のように記述しています。「後になって冷静に考えてみると、私は尼さんギライなのである。自分のことを尼さんと思つてなくて、近頃は「尼さんのコスプレをしている」と言っている。私もイラストレーターだった勝本さんは、30代で仏跡巡拝の旅に出た。そのうち、叡山学院や佛教大学、京都大学などで仏教学を学び、かたわら天台宗の青蓮院門跡で得度した異色の経歴の持ち主。他では聞けない「異端の尼さん」のお話ぜひ、本書を手にとってみて下さい。



法のことば

他人の過失を探し求め、
つねに怒りたげる人は、
煩惱の汚れが増大する。
かれは煩惱の汚れの
消滅から遠く隔っている。

(ダンマパダ二五三、中村元訳)

この詩節を読んで、なぜか「炎上」という現象を思い起こした。「炎上」とは、ある人の行いや発言に対して、主にインターネット上で多数の人の批判や非難が殺到する状況です。政治家、芸能人など有名人名人から一般人に至るまで、様々な人たちが、日々「炎上」の対象となっています。

「炎上」の対象となつては、まさに「怒り」に燃えた人々が次々と標的を変えて、非難の対象となった人の人格、人間性までも焼き尽くしていく、そんな事象であると言えるかもしれません。もちろん、そうした「怒り」のなかには正当なものもあるでしょう。しかし「暴力」が、しばしば自分の正しさを信じて疑わない人々によって引き起こされるといふことを忘れてはなりません。

揃えることなのである。ある会社のトマトケチャップは、どこで買っても何年も前と変わらない同じ味がする。しかし、トマト1つ1つの味は違うはずなのに、いつでもどこでも同じ味がするのはおかしくないのか？

自然素材を原料としている限り、同じ味を維持するには膨大なエネルギーが費やされ、どこかで無理が生じていないか？

インドネシアに行ったときの経験である。洒落た喫茶店で、インドネシアの美味しいコーヒーを期待して注文した。しかし、期待していた味と違っていたので驚いた。

メニューを見ると、インドネシアン・コーヒーとは別にネスカフェとあるではないか！ しかも、ネスカフェのほうが高い！

ベトナムでも同じような経験をした。洒落た喫茶店で、インドネシアの美味しいコーヒーを期待して注文した。しかし、期待していた味と違っていたので驚いた。

お知らせ

＊卒業回生の合同礼拝＊

卒業回生のみなさんは本学での最後の礼拝として「合同礼拝」を行います。
日時 令和元年11月20日(水) 15:00~16:30
※14:00から受付を開始します。
※14:45までに入場してください。
場所 B501教室
記念講演 「精神科医からみた幸せな生き方」
飯塚 浩氏
(メディカルストレスケア飯塚クリニック院長、精神科専門医)
申込期間 令和元年9月17日(火)~11月13日(水)
・必ずお念珠を持参してください。
・参加者には卒業後にもずっと使っていただけるオリジナルの記念品があります。

＊仏前成人式＊

記念講演では、外松太恵子氏にお越しいただきます。立食パーティーでは、オリジナル記念品やすてきな景品があたるビンゴゲーム、抽選会もあります♪
日時 令和元年12月14日(土) 13:00~17:00
※12:10から受付を開始します。
※12:30までに入場してください。
場所 礼拝堂(A校舎5階)・学生食堂(A校舎地階)
記念講演 「『二十歳の出発』—私は輝いている—」
外松太恵子 氏(青少年問題カウンセラー)
申込期間 令和元年10月7日(月)~12月6日(金)
・先着200名です。
・必ずお念珠を持参してください。
◆それぞれの詳細は京女ポータル、掲示板で確認してください。

シリーズ 智慧の蔵 26

『尼さんはつらいよ』

勝本華蓮 著 新潮新書 二〇二二年

(安田 章紀)